

宇和島城通信

5

2011.11

現在、城山では代右衛門丸跡と式部丸跡という場所で発掘調査を実施しています。今年の冬には、石垣の修理工事にとりかかり、来年には一般開放する予定です。特に式部丸跡周辺は、ここ数十年は石垣が危険で、一般開放していない“開かずの郭”となっている場所です。本号では、この2つの郭について、最新の発掘調査成果をまじえながら、迫っていきます。

【上の写真】 代右衛門丸跡の石垣です。向かって左奥の箇所が高さ約14mもあり、城内で最も高い石垣となります。ノミで丁寧に加工された切石を隙間なく積み上げた専門家も息をのむ見事な石垣です。幕末に築かれたものですが、これほどの石垣を、城の軍事機能が薄れ財政状況も苦しかった幕末に築いたのが、宇和島城の謎のひとつです。

【左の写真】 式部丸の入り口の発掘調査状況です。調査前は、立ち入り禁止にするための柵が備え付けられていました。土砂がたまり、木が生い茂ったりして、その状況がよく分からなくなっていました。石段や排水溝、石垣などが発見され、当時の様子がわかってきました。



調査前

代右衛門丸と式部丸

人の名前のような名称がついているこの2つの郭は、上り立ち門から歩いて3分ほど城山南側に広がる平らな場所です。この地区には、未解明の謎があります。今回は、これらの謎について過去の研究や最新の発掘調査成果をもとに、想像をたくましくして推理していこうと思います。

◆ 郭の名称は家臣の名から？

代右衛門丸と式部丸の他にも、宇和島城には長門丸（遊具のある広場）や藤兵衛丸（郷土館のある場所）といった、本丸・二の丸・三の丸などの一般的なものではなく、宇和島城特有の呼び名があります。まずはこの名称から紐解いていきます。

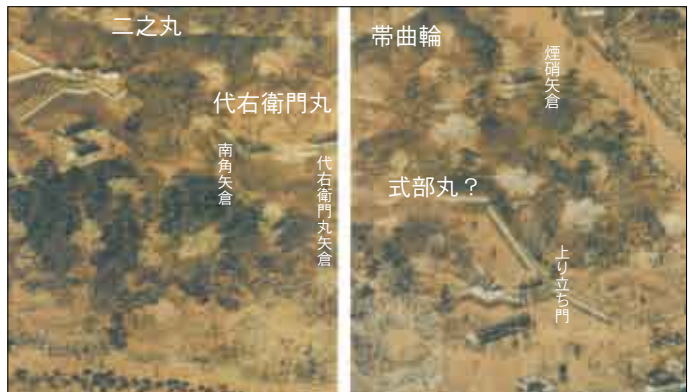
これはやはり、人名に関係のあるものと考えています。今のところ、代右衛門丸は藤堂家の家臣となる“矢倉大右衛門”、式部丸は伊達家の家臣となる“山崎式部”に関係するものではないかと考えています。この関係について断定できる史料は、今のところ発見されていないので、郭の造成を任されたのか、その管理や有事の際の担当する場所であったのかなど色々考えなくてはなりません。



① 宇和島城絵図 部分 正徳元（1711）年

◆ 矢倉大右衛門と代右衛門丸

矢倉大右衛門については、藤堂家の史料によると禄高2千石とあり、重臣クラスであったことが分かります。また、藤兵衛や長門についても重臣の中にその名前を見つけることができます。代右衛門丸は南側の守りの拠点であり、本丸周辺の山上部に重臣たちの屋敷を配置した織田信長の安土城の事例もあることから、「大」から「代」への置き換えは伊達家になって変わったものと考えて、代右衛門丸の由来は矢倉大右衛門にあるとしても良いのではないかと思います。



② 宇和島城下絵図屏風 部分 元禄6～8（1693～95）年頃

◆ 山崎式部と式部丸

式部丸は城内の他の郭と大きな違いが2点あります。まず1点目として、櫓や門などの建築物が一切見られないことが挙げられます。そして2点目とし



③ 宇和島城下絵図 部分 承応3（1654）年頃



④ 宇和島御城下絵図 部分 元禄16（1703）年

●掲載絵図の所蔵元 ①・④公益財団法人宇和島伊達文化保存会 ②宇和島市立伊達博物館 ③伊予史談会
●①・③・④の絵図の向きは、上が北となるよう、回転しています。

では、③や④の絵図にあるように、郭として認識されず、林のように描かれることが多かったということです。はっきりと郭として描写されるものは、①の絵図と幕末頃のものに限られています。

これらの事実を踏まえて、③の絵図を見てください。代右衛門丸とキャプションを入れてある箇所右下に、何やら文字が書いてあるのがわかりますか？これは、“山崎式部”と記されているのです。伊達家の史料をみると、山崎式部は、寛永15(1638)年から万治2(1659)年まで代右衛門丸に配されていたと記録があり、さらにその10年後の寛文9(1669)年には城普請大奉行に任じられてもいます。この頃は、武家諸法度の発令などにより、城の改修に対して幕府の目が厳しくなっており、新たに郭や建築物を作ることは困難であったことが想像されます。これらのことから、式部丸は山崎式部が在城していた時期か、普請大奉行であった時期に造成されたものではないかと考えています。

最近の発掘調査で、地表面約1m下の造成土から伊達家の家紋となる九曜文をあしらった瓦が複数出土しています。部分的な調査ですので断定は危険



⑤ 約1m下から出土した九曜文軒丸瓦



⑥ 帯曲輪下の煙硝矢倉へ続く道下の石垣



⑦ 代右衛門丸矢倉下の石垣



⑧ 南角矢倉下の石垣



⑨ 煙硝矢倉下の石垣

◆ 謎の巨石石垣と切石石垣

この地区の石垣は、城内最古のものから最新のものまでバリエーションに富んでいます。さしづめ石垣展示場といったところです。その中でも、特に目を引く石垣が2つあります。⑥の1mを超えるような巨石が多用された石垣と⑦(表紙上段も同じ)の城内では最も高く切石を隙間なく巧みに積み上げた石垣です。江戸時代の石垣技術は、より美しく、より高くという方向へ発展していく傾向があります。それから考えれば、⑥が古く、⑦が新しいということになります。

⑥のように巨石をデザイン的にちりばめるものは、通常御殿や天守などへ通じる主要な道沿いに築かれます。ところが、①の絵図を見てください。この石垣の先には煙硝矢倉しかなく、道も行き止まりとなります。この石垣は藤堂高虎が築城した慶長6(1601)年頃と推定していますので、藤堂の頃は絵図にはない道が存在していたのか別の重要な使われた方をしていたのかもしれません。

⑦の石垣は嘉永4(1851)年頃のものとしていますが、城の軍事施設として機能が薄れる幕末にどうしてこれほどまでの石垣を修理する必要があったのか、専門家の方たちも疑問に思われるほどです。これは、当時の御殿(現在の御殿町あたり)からの景観ということも考慮に入れる必要もあると考えています。

● 矢倉と櫓、曲輪と郭の違い：2文字表記されているものが中世ごろ、1文字のものが近世に入ってからの表記と言われています。宇和島城については絵図などに古い文字が使われているので、固有名詞として使用する場合には、そのまま使用しています。

お城・お知らせ・瓦版

◆ 式部丸跡現地説明会のご案内

下記の日時で、現地説明会を開催します。平成18年から実施している発掘調査の成果を説明します。表紙下段の式部丸の入り口付近のことの説明が主な内容となります。この説明が終わりましたら、整備工事に入っていきますので、発掘した状況をお見せできるのはこれが最後となります。また、石垣の見方についても式部丸・代右衛門丸の各所をめぐって実物を見ながら、分かりやすく解説します。ぜひ、ご参加ください。

【とき】11月13日(日) ①10:00～11:30
②13:00～14:30

※同じ内容の説明会を2回開催します。

【ところ】式部丸跡(集合場所)・代右衛門丸跡
※桑折氏武家長屋門、上り立ち門のどちらからでも案内しております。

※車の方は、最寄りの有料駐車場等をご利用ください。

【申込・参加費】申込不要、参加費無料



◆ 宇和島城城山を守る会が結成されました(1月23日)

宇和島城を誰もがもっと楽しめる城にしていくことを目的に発足したボランティア団体です。現在のところ60名あまりの方が参加されて、月1度の活動で色々頑張ってもらっています。結成から今までの主だった活動を紹介します。もう少し詳しくお知りになりたい方はこちらへ→城山を守る会ブログ「大目付日記」(<http://uwajimajou-shiromori.blogspot.com>)

● 三之丸跡の植栽活動(2月20日)

宇和島郵便局裏の石垣を修理した箇所城山で自生しているヤブツバキ70本とノシラン約200株を植栽しました。その後の水やり、除草も定期的に行なわれていて、枯れることなく順調に育っています。



● 城山郷土館リニューアル(7月)

城山内では、室内でゆっくり休める場所がなく、また大勢が学習していただけるスペースもなかったため、中腹の城山郷土館の展示をリニューアルを兼ねて、30名程度が収容可能な学びと憩いの場を設けました。



● 宇和島城夜間開放(7月23日)

おそらく宇和島城にとっては、初となった夜間開放です。うわじま牛鬼祭りの海上花火大会にあわせて解放しました。こちらの予想を上回る455名の方に登城していただきました。来年度も開放できるよう検討しています。



◆ 城山大掃除(天守すす払いなど)今年も実施します!

毎年恒例になりつつある城山大掃除です。今年は下記の日時で実施します。一緒に城山のお正月準備をしませんか?

参加されたい方ご関心のある方は、文化課文化財保護係までご連絡ください。

【とき】12月11(日) 9:00～12:00

【ところ】城山管理事務所前(児童公園)



■ 問合せ先

教育委員会 文化課 文化財保護係【Tel】49-7033【Fax】22-5058【Mail】bunka@city.uwajima.lg.jp